

【①表現—B:材料・素材】

■紙袋のおもしろさを活かそう

●紙袋ならではのよさを活かそう

包装紙や折り紙、段ボールなどと違う紙袋のよさとは「何かを入れる」「包むことができる」「容易に形を変えられる」ことだと考える。子どもたちに「紙袋を使って、どんなことができるかな。」と投げかけると、すぐに袋を破って広げ始める。もちろんそのようなおもしろさもあるが、広げるだけなら包装紙を使えばいいことで、袋になっていることを子どもたちに意識させることが大切である。

まず、袋になっていることを見て、新聞紙や画用紙を入れてみる。そこから一部分を切り取って穴をあけたり、ちぎって短冊のようにしたりする活動が始まる。その後、袋と袋をつなげたり、図工室の頭上のポールにつるしたり、活動が広がり、図工室の大変身につながっていく。

●紙袋を集めよう

子どもたちが思いのままに活動するにはかなりの紙袋が必要になる。1人20枚使うと考えると30人で600枚以上にもなるので、活動に取り組む二ヶ月前から家庭の協力を得て、準備をした。紙の質感を大切にしたいので、ビニールの持ち手ははずしてもらった。紙袋が集まるにつれて、「今度はどんなことをするのか。」とワクワクしながら、紙袋の山を見つめていた。

●つなげるものの素材

紙袋をつなげるときにセロハンテープやガムテープを使うと簡単につなげることができる。しかし多用すると、紙袋はすぐにセロハンテープやガムテープでいっぱいになってしまう。素材を活かすことを考えると、紙袋同士をつなげるものは紙テープや紙ひもなど、可能な限り素材をそろえると素材の質感のよさに気付くようになる。そして、片付けのときの分別も楽になる。

●場所の工夫

ただ広いだけの空間では、子どもが何をしたいのか分からなくなり、袋を広げてつなぐだけになってしまう。活動場所は、想像が膨らむように設定すると子どもたちの創作意欲が湧いてくる。乗っても安全な土台やつるしてみたいくなる紙ひもやレール、気軽に移動できる台のようなものがあると自分たちで活動場所を広げ、発想を

膨らませ、引っ掛けたりつないだりする。図工室では、大きな机や動かし易い椅子などがあり、高いところにくす玉をつくったり、紙のカーテンや植物の蔓を伸ばしたりしていた。



●子どもたちの思いを広げよう

紙袋でどのようなことができるのかをみんなで考えて、その材料ならではのよさを活かした活動のヒントとなる。

一部分をちぎって穴をあけたり、底を開いて筒状にしたり、子どもたちはいろいろなことを考える。子ども同士が気付いたことを伝えあったり、教えあったりすることが大切である。

(神奈川県横浜市立西寺尾小学校教諭)